

季咲き作型におけるトルコギキョウ斑点病の 薬剤散布による防除の実証（浪江町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 営農再開地域におけるトルコギキョウ斑点病に対する防除体系の実証（浪江町）

担当者 佐藤優平

I 新技術の解説

1 要旨

浜通り平坦地域では、花きによる営農再開が進んでおり、特にトルコギキョウの栽培が拡大している。しかし、近年はトルコギキョウ斑点病による被害が拡大しており、その対策が急務となっている。そこで、季咲き作型において斑点病に登録がある5剤を使用して、4月から5月は2週間に1回、6月以降は7日～10日に1回散布したところ、発病株率は0%～12%となった。

- (1) 試験ほ場は、前年度に季咲き作型において斑点病が多発し、収穫に大きな影響があったハウスで実施した。聞き取りにより前年度の初発日が7月中旬頃であったため、6月以降を重点防除期間として、散布間隔を7日に1回の区と10日に1回の区を設けた（表1）。
- (2) 6月以降1週間に1回散布した区では、発病株率が12%となり、6月以降10日1回散布した区では、斑点病の発生は見られなかった（表2）。
- (3) 今回の実証では、トルコギキョウに斑点病は確認されたが、収穫に影響を及ぼさない程度の発生状況であった（図2、図3）。

2 期待される効果

- (1) 浜通り平坦地域におけるトルコギキョウ斑点病防除の参考となり、トルコギキョウ斑点病の被害軽減につながる。

3 活用上の留意点

- (1) 栽培品種は「アンバーダブル2型ミント」である。
- (2) 5月からは展着剤であるスカッシュを混ぜて、散布をおこなった。
- (3) 作型は異なるが隣接するトルコギキョウ栽培ハウスで、同時期に斑点病の発生が見られていた。

II 具体的データ等

表1 各区の散布薬剤

4月～5月2週間1回散布 6月以降1週間に1回散布(試験区)		4月～5月2週間1回散布 6月以降10日に1回散布(試験区)	
日付	薬剤名	日付	薬剤名
4月2日	ダコニール1000	4月2日	ダコニール1000
4月16日	トップジンM水和剤	4月16日	トップジンM水和剤
4月30日	ダコニール1000	4月30日	ダコニール1000
5月14日	トップジンM水和剤	5月14日	トップジンM水和剤
5月28日	ダコニール1000	5月28日	ダコニール1000
6月4日	ファンタジスタ顆粒水和剤	6月7日	ファンタジスタ顆粒水和剤
6月11日	ダコニール1000	6月17日	ダコニール1000
6月18日	ファンタジスタ顆粒水和剤	6月27日	トップジンM水和剤
6月25日	トップジンM水和剤	7月7日	ファンタジスタ顆粒水和剤
7月2日	パレード20フロアブル	7月16日	ポリオキシシンAL水溶剤「科研」
7月9日	ファンタジスタ顆粒水和剤	7月26日	ファンタジスタ顆粒水和剤
7月16日	ポリオキシシンAL水溶剤「科研」	8月5日	パレード20フロアブル
7月23日	ファンタジスタ顆粒水和剤		
7月30日	パレード20フロアブル		
8月6日	ポリオキシシンAL水溶剤「科研」		

表2 試験ほ場における斑点病発生状況

散布頻度	定植日	初発日	発病状況調査(収穫直前 8月4日調査)			
			調査株	発病株率	100葉当たりの発病葉率(%)	発病度
4月～5月 2週間1回散布 6月以降1週間に1回散布	4月2日	7月22日	25	12%	4	1.3
4月～5月 2週間1回散布 6月以降10日に1回散布	4月2日	—	25	0%	0	0

※初発日は病徴を初めて確認した日

※各区25株調査し、1株当たり4葉の合計100葉調査した。調査位置は展開している最上位葉から下に4葉、頂花発生後は、摘心位置から下に4葉調査した。

※発病度 = $\{ \sum (\text{発病指数別葉数} \times \text{発病指数}) \times 100 \} / (\text{調査葉数} \times 4)$ 発病指数は0:発病なし 1:病斑面積5% 2:5%以上25%未満 3:25%以上50%未満 4:50%以上

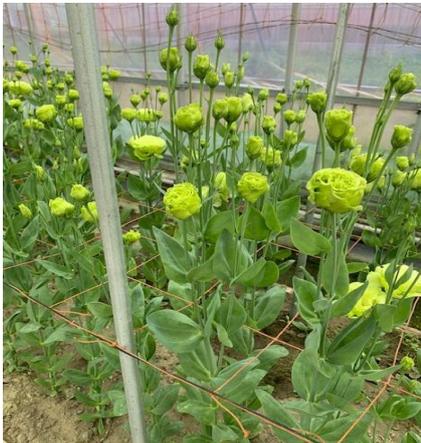


図1 試験ほ場のトルコギキョウ



図2 斑点病の拡大写真

III その他

1 執筆者

佐藤優平

2 実施期間

令和3年度

3 主な参考文献・資料

大竹祐規. トルコギキョウ斑点病の各種薬剤の防除効果. 北日本病害虫研報, 2020, 71:88-89